

環境先進国

ドイツから学ぶ

吉田 浩巳

24



自然保護団体が水辺の観察地に設置した看板。「耳を澄ませば、昆虫などのさまざまな息吹が聞こえます」などと書かれている「ドイツ・マインツ州



環境NPOのNABUの専従職員は、それぞれが何らかのプロジェクトのリーダーを務めています。具体的な例をあげると、鳥の記録を取り続けているコウノトリの専門家がいます。毎年8組のコウノトリがこの自然保護センターにやって来ます。

ここで活動している方は、まず、研修を受けてもらい、終了後「自然トレーナー」という肩書で、動物、昆虫、植物を持って定期的に幼稚園に行くなど、環境教育の一翼を担ってもらっているそうです。

このわずか8組のコウノトリだけを調査し続ける専門家がいるということから判断すると、この自然保護センターも多くの来場者を得るこだけ目的ではない

具体的なプロジェクトの一つとして『川のレンジャー・水辺のサービス』と銘打って実施している事業が

会員40万人のNPO②

プロジェクトの専門家

く、調査や研究の傍ら、いつでも見てもらえる場所を提供しているという印象を持ちました。

州環境省との協働事業も多く実施しており、教育プログラムもその一つです。この事業は、リタイヤされ

あります。川の周辺には多くの方が訪れます。川のレンジャーと命名された方が水辺の動植物の観察も行い、さらに団体視察の案内もしています。自然保護地域にもかかわらず、観光客が多いためか、捨てられた

のものも目に入ります。NPOの財源は基本的には、会費収入や寄付金、委託料などです。ここでは洗剤メーカーから寄付をもらっており、その寄付行為に対する公表を積極的に行って、寄付してくれる方の社会的な認知促進のお手伝いを行い、寄付行為を継続してもらえるように努力を続けているそうです。

当初は「洗剤メーカー」と聞いただけで、なぜ環境を害する洗剤メーカーからの寄付を受けるのかという疑問を投げかける声もあったそうです。ただ、この洗剤は他社と違い、環境にやさしいので、NPOとしても積極的に広報するべきという判断に至ったようです。

(社団法人まちづくり国際交流センター理事長)

水曜日掲載



自然保護センターの展示の様子=ドイツ・マインツ州